

東部支部巡検会の報告：
富士火山周辺の火山灰の観察会・愛鷹ローム層の標
本観察会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 篠ヶ瀬, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025129

東部支部巡検会の報告

～富士火山周辺の火山灰の観察会・愛鷹ローム層の標本観察会～

篠ヶ瀬 卓二*

1 はじめに

平成11年度の東部支部において実施した11月3日(水)の「富士火山周辺の火山灰の観察会」と2月26日(土)の「愛鷹ローム層の標本観察会」の2回の巡検会について簡単に報告させていただく。

2 富士火山周辺の火山灰の観察会 11月3日実施

集合場所を富士山の御殿場口の太郎坊に決め、講師には、静岡農業試験場の宮地直道氏を依頼した。文化の日にかかわらず、天気にも恵まれ20名ほど参加した。

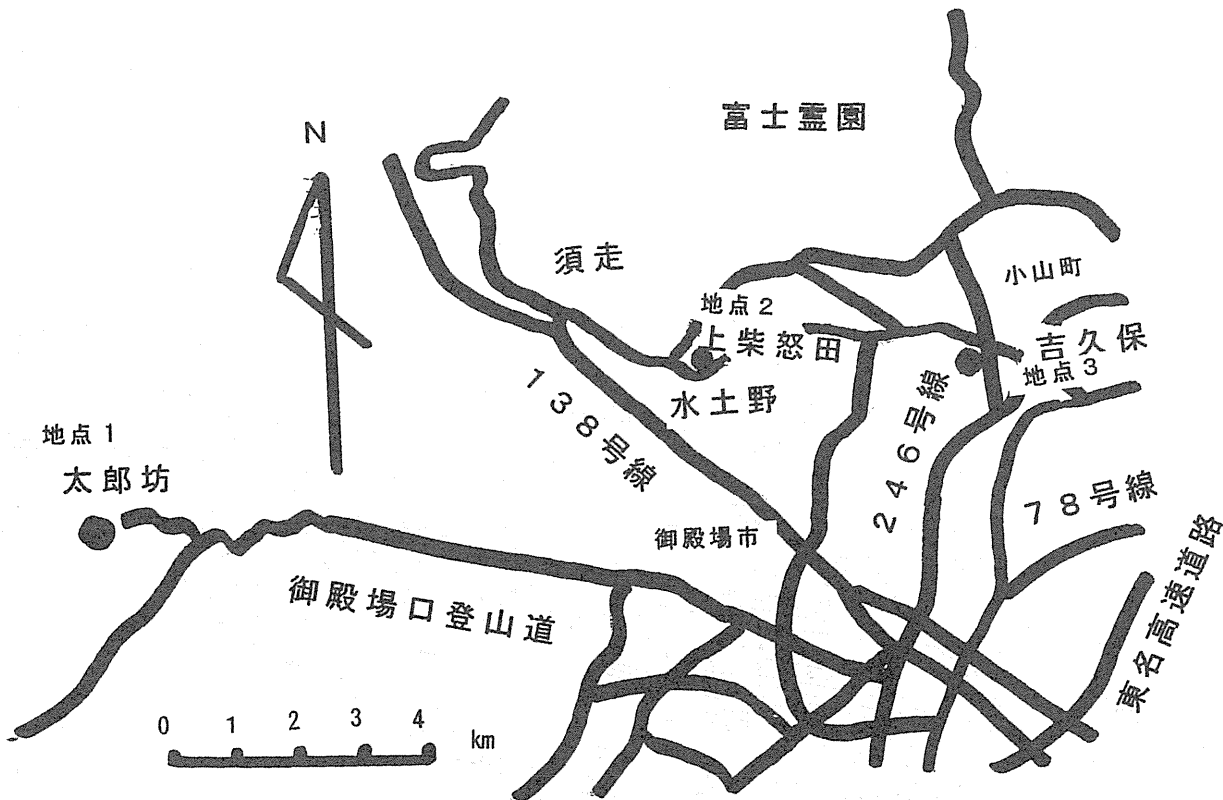


図1 富士火山周辺の火山灰観察会 コース案内図

○地点1 太郎坊「新富士火山のテフラ」の観察

御殿場口富士山二合目・太郎坊には3つの駐車場があり、第一駐車場の南側には深さ10mあまりの谷が刻まれており、新富士火山の主要な火山碎屑物(テフラ)が見られる。(図2)崖の最上部層の軽石層とそれを覆うスコリア層は宝永のもの。宝永スコリア層の上半分は浸食によって失われ、宝永スコリアの二次堆積層が表層を覆っている。

* 富士市中里 953-27

宝永スコリア層の下位には太郎坊の北西にある二ツ塚（双子山）から1500年前に噴出した二ツ塚スコリアや湯船第2スコリアをはじめとする約40層のテフラが観察される。露頭の下位には、炭化木炭を含む固結した縞状の2層の火砕サージ堆積物層も観察できる。また、最下部層には、幕岩同様の縄状構造の見られる三島溶岩流がくる。

○地点2 ^{かみしぼんた}上柴怒田「広域テフラと古富士火山テフラ」の観察

太郎坊から滝ヶ原、^{みどの}水土野を経て国道138号線に入り、須走から東方の上柴怒田に向かう道路の左手に約15mの高さの崖が続く。この地点の露頭では、古富士火山の降下スコリア層や風化火山灰層がそれぞれ数十cmの厚さで数十層重なっているのが観察できる。この地域は、小山町に近いが御殿場市域に入っている。崖の上部には、礫の密集した部分が見られるが、これは古富士火山末期の古富士泥流層である。写真のハンマーの近くの約15cmほどの白色火山灰が、^{あいら}始良カルデラ（AT）からの火山灰で、最終氷期の25,000年前の広域テフラである（写真1）。

○地点3 小山町吉久保の「流山」の観察

小山町吉久保・須川橋付近の流山のでき方を観察。流山は岩屑なだれ堆積物の表面にできる特徴的な突起した地形。高さは数mから100mを超えるものまである。火山活動や地震に伴い、火山体の一部が地すべりを起こし、山麓に堆積するとき、細かく破碎されずに火山体の破片が堆積物の表面に突出して流山地形をつくるといわれる。アメリカのセントヘレンズ火山にあるが、古富士火山の活動の末期にも崩壊が起きたことがはっきりした（写真2）。

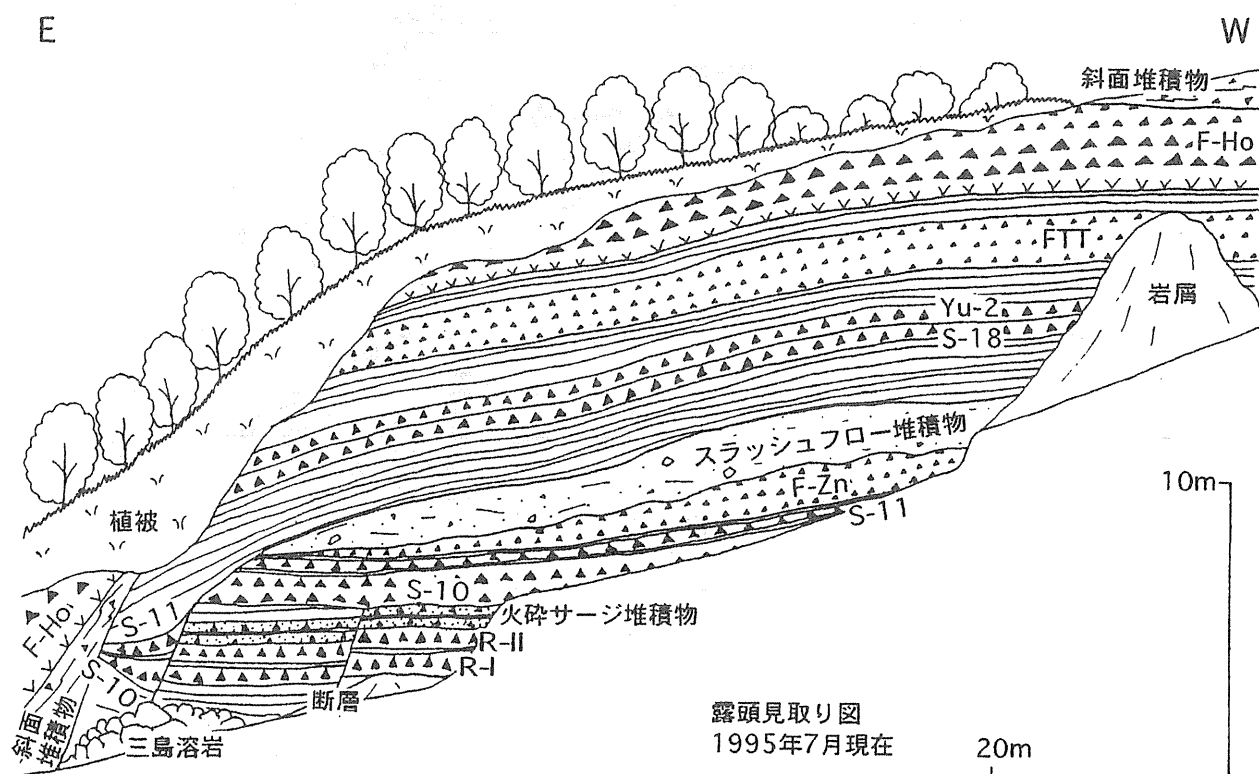


図2 太郎坊の新富士火山のテフラ 露頭見取り図（宮地原図）



写真1



写真2

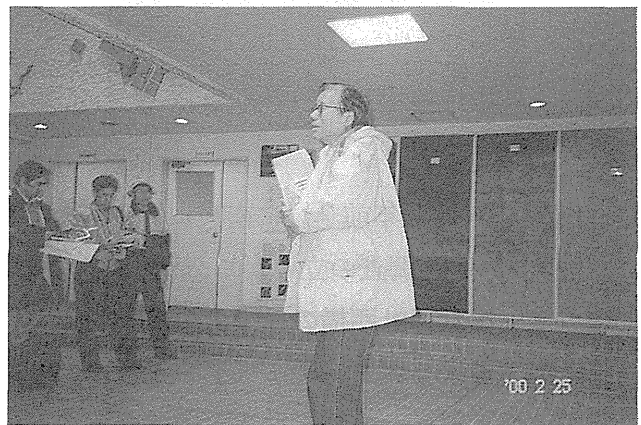


写真3

3 愛鷹ローム層の標本観察会 2月26日実施

沼津工業高等専門学校のご好意で、愛鷹ローム層の標本の観察や遺跡発掘現場の観察、第二東名高速道路沿いの愛鷹ロームの最下部層と基盤の観察、鮎壺の滝のローム層と溶岩樹型の観察ができた。25名の参加。案内者は、元沼津高専の藤枝孝善氏と現沼津高専の佐藤崇徳氏、静岡県教委指導主事小早川隆氏。

○地点1 沼津高専図書館内の愛鷹ローム層の標本の観察

平成11年10月13日、図書館ロビーに展示された。このローム層の標本は、新校舎建設の際、現れた露頭を特殊な方法でそのまま剥ぎ取った貴重なものである。工事の都合で、露頭標本は中部ローム層から上の部分しかない。あと5mほど掘り下げれば、紫灰色の下部ロームも観察できたと思われる。長いので2mずつ切断して展示してある。広く一般に開放されているので、高専に申し出て見学することを勧める(写真3)。

○地点2 門池中学校東側遺跡発掘現場の愛鷹ローム層の観察

この地域は、愛鷹火山新时期ステージ(油井・藤

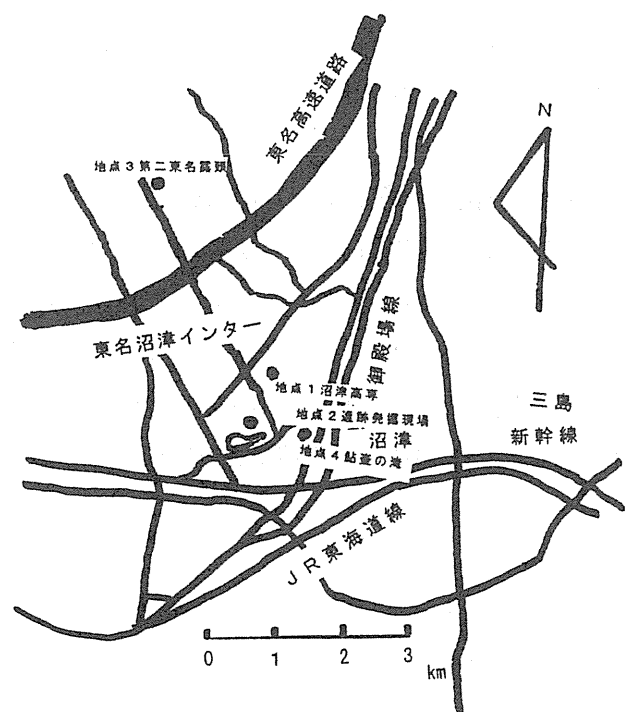


図3 観察会のコース案内図



写真 4



写真 5

井、1989；10 数万年前？）に南東に流下した桃沢川火砕流（油井・藤井、1989）堆積物台地の先端部に立地する。遺跡調査の立場から、表のように層準と遺物の出土層がきめられている。（小早川による）

○地点 3 桃沢神社西横の露頭の観察

第二東名長泉インターチェンジの建設にともない露頭出現。

露頭の最下部は、基盤をなす火山麓扇状地もしくは愛鷹泥流の角礫層。その上に、下部ローム層が 6 m 重なる。最も目を引くのは下部ローム層の上の方にある約 5 万年前の箱根新期火砕流 TPf1 で、ほぼ水平に帯状に分布、厚さは 50 cm 程度。この上にくるのが黄褐色をした 5 m 程度の中部ローム層。黄褐色の中部ローム層の上に現れる黒色帯からが上部層。露頭最上位の黒っぽい縞模様の互層が現世腐植質火山灰層。6000 年前のアカホヤ火山灰 K-Ah と 3000～2800 年前のカワゴ平軽石 KgP が含まれている（写真 4）。

○地点 4 鮎壺の滝とローム層の観察

黄瀬川には、溶岩流のつくる遷急点に、鮎壺の滝や五龍の滝がある。鮎壺の滝は、上部に落差 2.6 m と 1.5 m の 2 本の滝があり、その下に落差 8.8 m の本滝がある。この滝の基部に礫まじりの赤褐色にやけた愛鷹ロームがある。軒先のように突き出た溶岩を下からのぞくと、直径 1 m、高さ 7 m の円筒形の溶岩樹型と直径 50 cm、高さ 1.5 m の溶岩樹型が観察できる。壁面から剥ぎ取った炭化木から 10,490±230 年 BP（渡辺精ほか 1996）を得ている（写真 5）。

4 おわりに

本年度は、たまたま富士火山の火山灰を中心に、二つの巡検が組まれたが、火山灰を知る手がかりになったと思う。事前にご準備いただき、終始懇切なご指導いただいた宮地直道氏、藤枝孝善氏、佐藤崇徳氏、小早川隆氏にお礼を申し上げる次第である。

参考文献

- (1) 第四紀学会第四紀露頭集編集委員会編 (1996)「第四紀露頭集ー日本のテフラ」
- (2) 宮地直道ほか (1998)「フィールドワーク 日本の火山2」築地書館
- (3) 地学団体研究会編 (1996) 新版地学辞典 平凡社



写真6 鮎壺の滝 滝の側壁にある溶岩樹型を下からのぞく



写真7 火山灰層の観察

沼津市文化財調査報告書第65集 第3節 調査区と層序より

- 第1層 表土 黒色の腐植土。
- 第2層 新期スコリア (新期SC) 橙色を呈する。
- 第3層 栗色土層 (KU) 層厚22cm、上部に径1 mm程の白色カワゴ平パーミスを含む。パーミスの年代測定値は、BP2,830±120とBP3,250±70で縄文時代前期から中期の遺物包含層である。
- 第4層 富士黒土層 (FB) 層厚30cm、上部 (FBa) より下位 (FBb) が強い黒味を帯びる。強粘性、縄文時代草創期から早期の包含層である。
- 第5層 休場ローム層 最上部は漸移層 (ZN)
本層は、状況の良い場所で3層に細分される。上層 (U) はスコリアを含まず明度の高い黄褐色を呈し、ソフト化が進んで強粘性である。中層 (M) は、スコリアを多く含みやや鈍い黄褐色を呈する。下層 (L) は、スコリアを多く含むハードロームである。第I文化層は、5層のL~ZNにかけて検出され、一部は3層にも及んでいる。分布の中心はM~Uである。
- 第6層 休場層下部黒色帯 (BB0) 黒色の発色は、丘陵毎に異なる。
- 第7層 第Iスコリア層 (SCI) 橙色のスコリア層。中央部は、ドライカレー状の固いスコリアで、その上下では粒径が異なる。
- 第8層 第I黒色帯 (BBI) 黒味の強い風化埋没土壤層。乾燥すると縦割れする性質がある。第II文化層は、この上面で7層にパックされている。
- 第9層 ニセローム層 (NL) 黄褐色の硬質土層。スコリアが風化してローム状に見える。
- 第10層 第II黒色帯 (BBII) やや黒味のある風化埋没土壤層。人頭大の礫1点を検出した。
- 第11層 第IIスコリア層 (SCII) 橙色のスコリア層。
- 第12層 第III黒色帯 (BBIII) 黒味の強い風化埋没土壤層。乾燥すると縦割れする性質がある。
- 第13層 第IIIスコリア帯 b1とb2は黒褐色の風化土壤層。
- 第14層~21層 黒味の強い風化埋没土壤層とスコリア層の互層を成す。偶数が第IV~第VII黒色帯である。

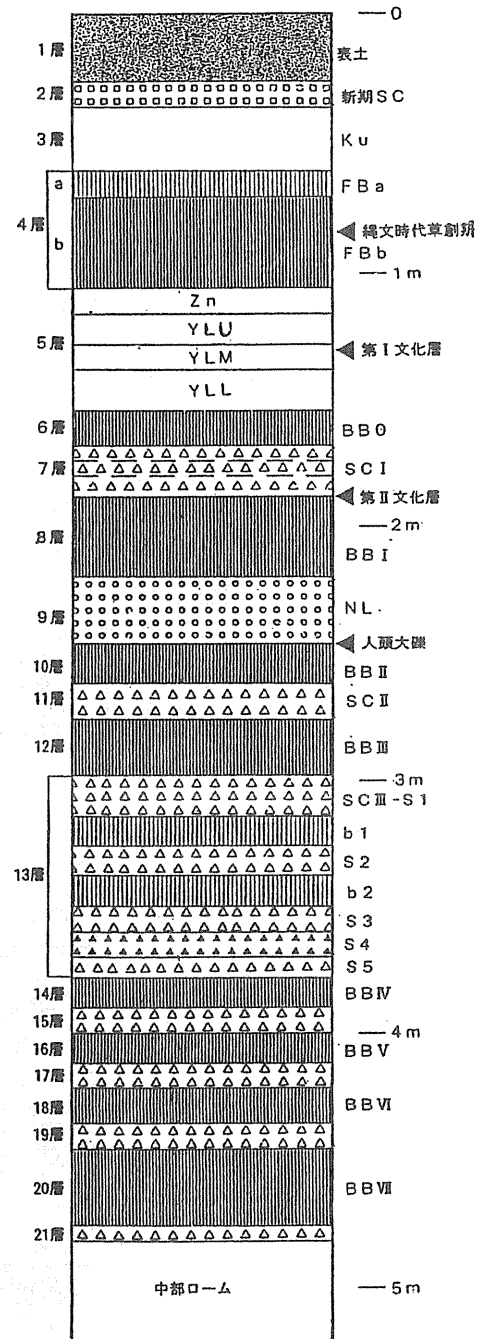


図4 土層柱状図